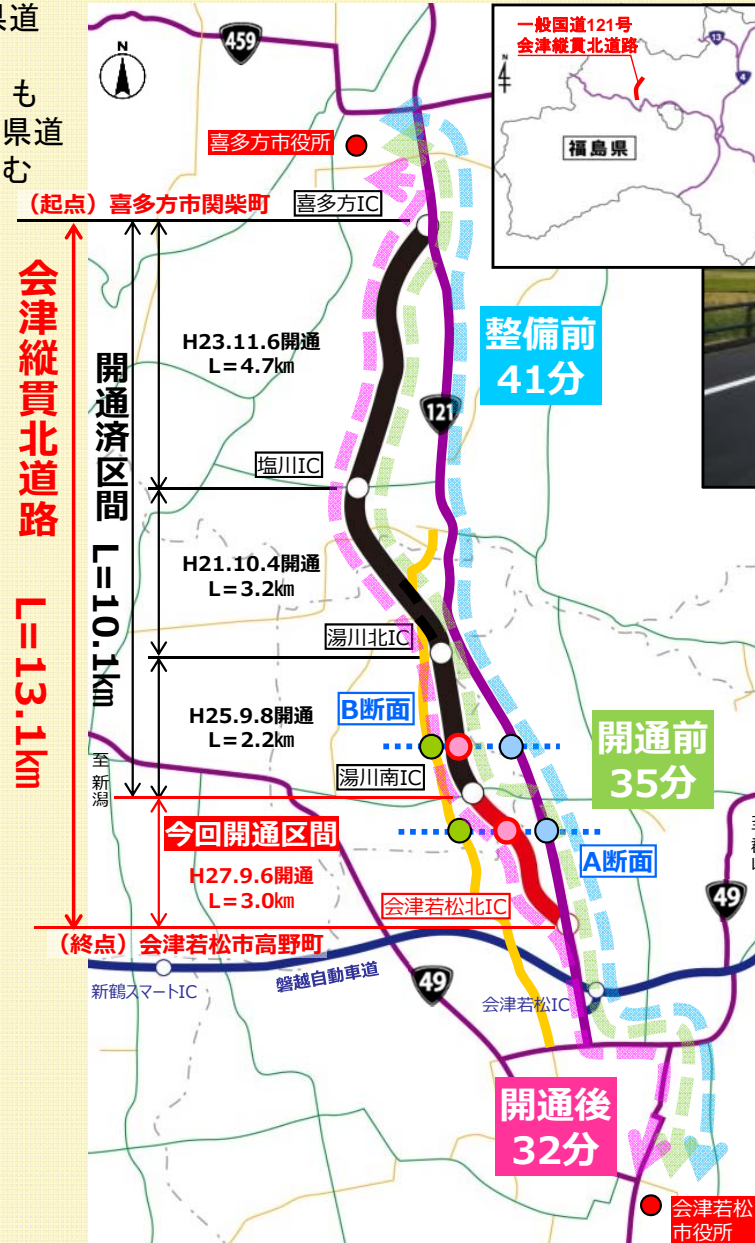
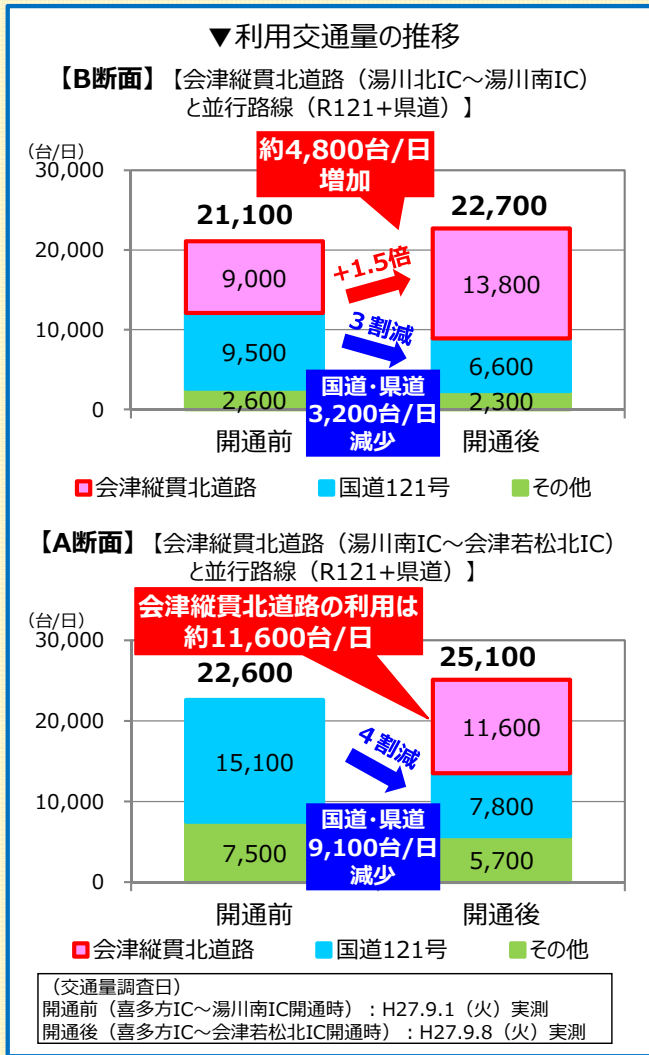


# 【開通1ヶ月後】国道121号 会津縦貫北道路が開通して

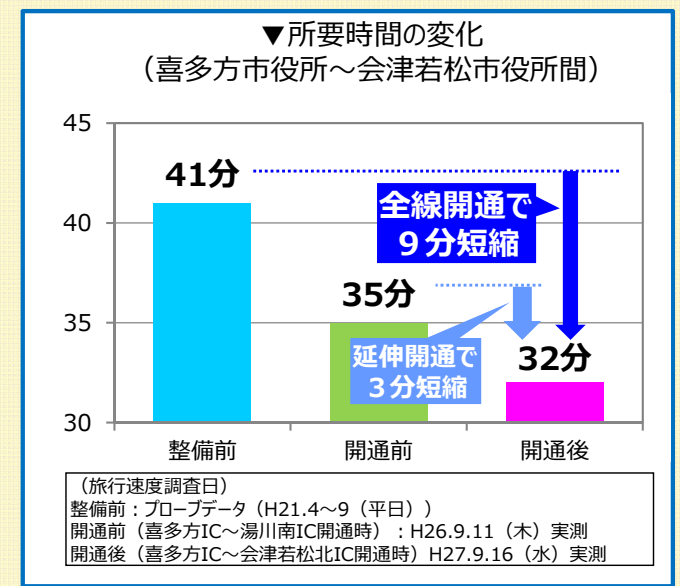
(平成27年9月6日 湯川南IC～会津若松北IC間開通)

- ① 開通により周辺道路の交通量が減少し、会津縦貫北道路の交通量が増加
- ② 喜多方市役所～会津若松市役所間の所要時間が9分短縮

①開通区間は約11,600台/日が通行。並行国道・県道の交通量は約4割減少  
既開通区間の湯川北IC～湯川南IC間 (H25開通) も約13,800台/日 (約1.5倍) に増加、並行国道・県道の交通量は約3割減少し、更に交通の転換が進む



②喜多方市役所⇄会津若松市役所間の所要時間は、開通区間の延伸により3分短縮 (35分→32分)、整備前に対し9分短縮 (41分→32分)



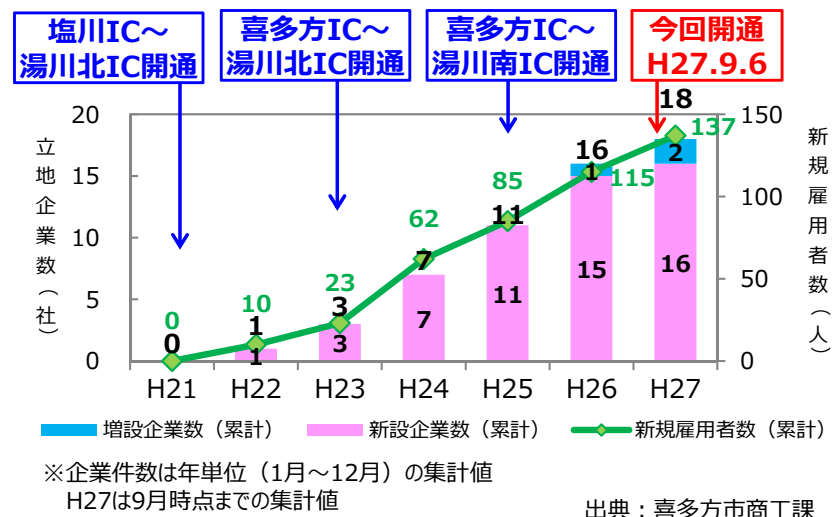
# 喜多方市へ企業 18社が工場を新設・増設し、新たな雇用を創出

- ◆ 会津縦貫北道路の開通以降、喜多方市へ企業 16社が工場を新設、2社が工場を増設し、新たな雇用（137名）を創出
- ◆ また会津縦貫北道路の開通以降、喜多方市の有効求人倍率の伸びが約5倍に（H27/H21）

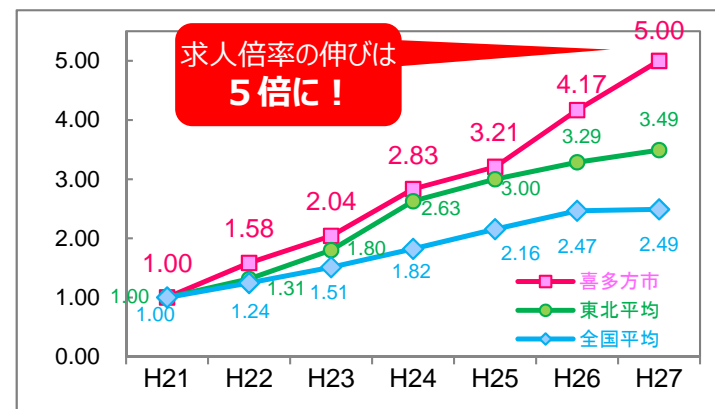
## ▼喜多方市へ新設した企業の立地状況（H21～H27）



## ▼喜多方市へ新設した企業数・新規雇用者数（累計値）の推移（H21～H27）



## ▼有効求人倍率の伸び率の推移（H21基準）



# 主要観光拠点間のスムーズな移動確保により、観光振興を支援

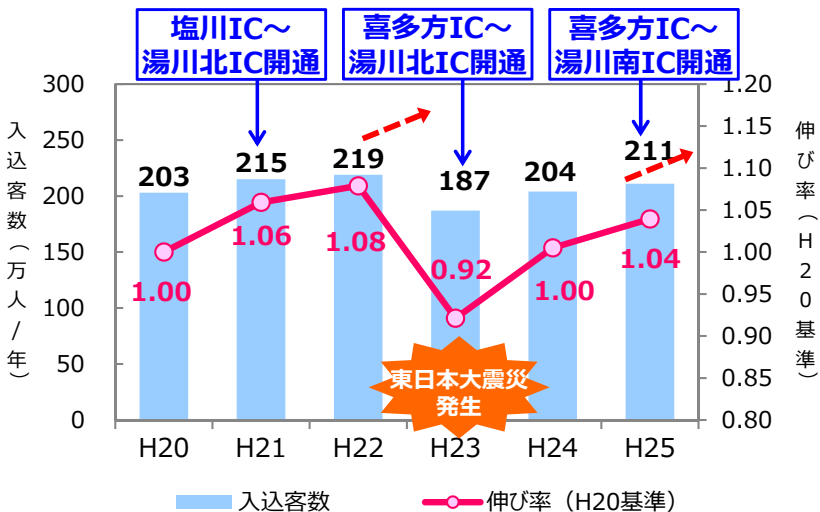
- ◆会津縦貫北道路の開通により、移動時間の短縮が図られ、喜多方市の観光入込客数も増加傾向
- ◆全線開通により、磐越自動車道会津若松ICとのアクセス性が向上し、会津地方の主要観光拠点間の移動がスムーズになり、観光入込客数の増加が期待される

## 観光客の行列で賑わう喜多方市内のラーメン店



喜多方を訪れる観光客の8割以上はまちなかに立ち寄り（その約9割はラーメン目当て）、会津若松や磐梯とセットで来訪される方が多い。  
 （新・喜多方市観光戦略策定調査報告書（H19.3）より）

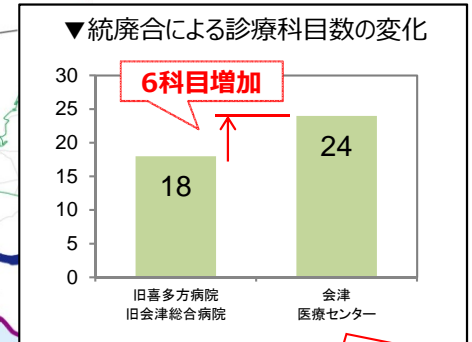
## ▼喜多方市の観光入込客数の推移（H20～H25）



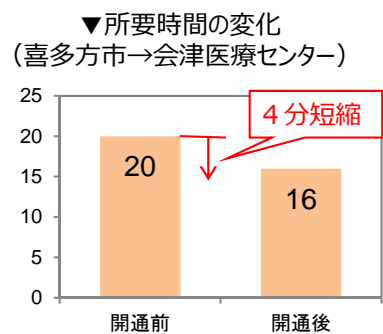
出典：国道121号（会津若松～喜多方間）の所要時間は会津縦貫北道路開通前の速度（H21）で算出

# 病院の統合を支援

- ◆ 会津縦貫北道路の整備計画が、喜多方・会津若松市内の県立2病院の統合（会津医療センター）を支援
- ◆ 統合により、会津医療センターでは、新たな診療科目を設置し、地域医療サービスが向上
- ◆ 会津縦貫北道路は会津医療センターへのアクセス道路として機能、喜多方方面からの外来患者数の増加、救急搬送を支援

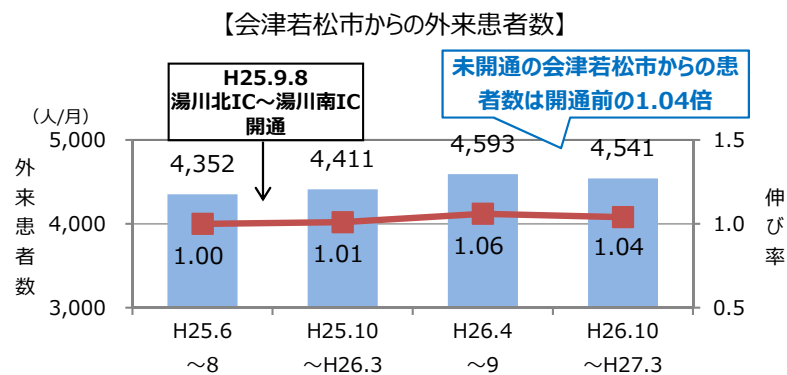
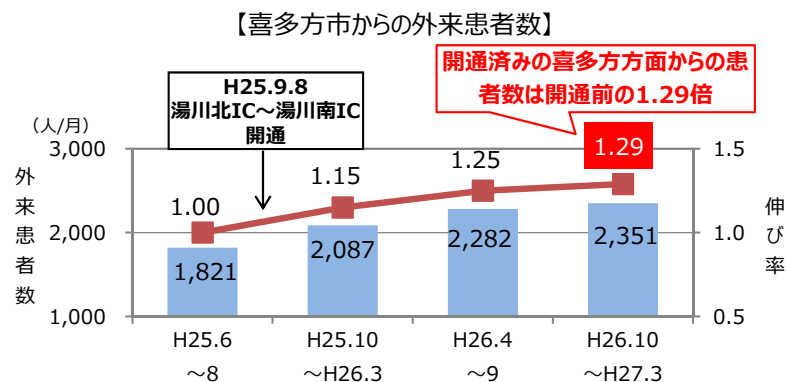


感染症内科、漢方内科など会津地方では会津医療センターのみ取扱っている診療科目も増設

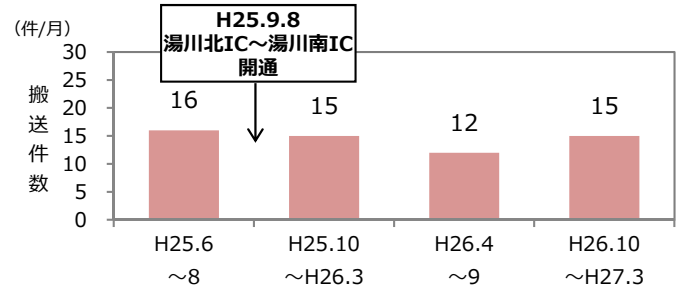


開通前：プローブデータ (H22)  
開通後：プローブ調査 (H26.9.11(木)実測)

▼ 会津医療センターの1ヶ月当りの外来患者数の推移  
※グラフ上の下段数値は開通前 (H25.6-8) に対する伸び率を示す



▼ 喜多方市→会津医療センターへの救急搬送件数の推移



資料：会津医療センター

・ 交通アクセス性の観点から、会津縦貫北道路が将来的に完成することを見据え、現在の場所を選定した決め手の一つとなった。

・ 当医療センターの開業で、診療科目が増え、会津地方で唯一血液内科・漢方内科を有する医療機関として機能するようになった。(会津医療センターヒアリング結果より)